



M2015 PBL1(前期)

資料作成指針

2015/5/12

九州大学 大学院システム情報科学府
情報知能工学専攻
社会情報システム工学コース(QITO)

概要

■ 持ち時間

- 発表:10分(～15分)
- 質疑:5分

■ レビューの趣旨

- 作成したいシステムの背景, アプローチの妥当性はあるか?
 - 学びの目標を達成できているか?
 - PBLを進める上でよかった点・改善すべき点は何か?
- 等を共有 & フィードバックしてもらう

お願い

- 【お願い1】 *必ず*先輩に事前にスライドをチェックしてもらう
 - 誰でも突っ込みができる指摘をされて、せっかくのフィードバックのチャンスを無駄にしないために。
 - メールでアポイントを取る、等。
 - ただし、5月20分は必要なし。

- 【お願い2】 下記を決めておいてください
 - 司会
 - タイムキーパー
 - 各チームの発表順序

- 【お願い3】
 - Githubのdocに必ずpushしておくこと。
 - むしろ普段の版管理としても利用してほしい

発表すべきコンテンツ

■ システムの概要

■ 今回の成果物

- 何を作ったか
- 担当箇所
- 計画を守れたか？

■ 学びの目標

- GQMモデルを用いて。数値的に達成度合いを伝える。
- チームの目標
- 個人の目標

スプリントレビューのあとにKPTを実施する

- 制限時間内にKeep/Problem/Tryをまとめる必要がある

判断基準

- 3つの軸を守れたか
 - 守れていなかった場合に何が原因だったか
- 改善できる余地が無いか
- 良かったことは何か

注意事項

- 個人攻撃の場ではない
 - タスクをすすめるスピードは人によって異なって当たり前
 - 個人差を考慮した見積りや計画を考慮できないか考える
- サポート体制を含めたグループでの課題/改善案を考える